

東京日々新聞

九百廿六号



日向瀧白井村にて先月
十三日明見社の祭禮のり
村の者ども集りて例の村芝居
と催したるに狂言の劇も忠臣蔵
の筋も五段目に至りて此村の猪熊と
云ふ者の役九郎と扮し舞臺に出て
彼の久しきの五下向と云ふ件迄
ま行と云ふ今日の出世の猪熊兄の定九良
ありと見物も答はるるし
勘平と扮したる男もねて所持
の瓶銃と持出しハタト火蓋を
切て落さぬ否や定九良の弾丸は
手費されてウソと仰り倒れさるる即死
しうと勘平も相濟すとて腹を切りやせや

未だ確報なりぬり村戯場可笑しき事有り是し
此猪熊の如き猪熊の報ひもわらじき
實に個然の至りるる人々衆と観
たるを

一善齋
幾

人形 具足屋

